

一月二十八日夜大谷會館に開催職工總代約六十名出席、協
議會上京員として江口秀雄外八名を選任し上京費用として
一人七十圓宛支給を決定し三十日出發することゝなつた。
7、上京委員出發

前項職工總代全員協議會選出の九名と各工場より選出され
た代表三十九名計四十八名は懇談會員福中源三郎引卒の下
に一月三十日午後六時二十二分八幡發列車にて數千の見送
人に送られて上京した。而して右上京委員中には大日本正
義團九州本部第二支部員參名參加せり。

かくて豫當初傍觀的態度を持した一般従業員も、労働團體の
運動と合同後の不安とは相俟つて次第に反對氣運を醸成し、
殊に一月末頃より頗る氣勢を加へ、且つ運動資金の如きも拾
錢を最低とし一日分の賃金據出を決議したる工場さへあるの

みならず、尙不足の場合は全職工の相互扶助基金(約十五
萬圓ありと謂ふ)より支出せんとする勢にして其の運動漸次
深刻となりつゝある。

四、八幡市會の態度

a、市會協議會の開催

無産三派(舊社民、舊勞大、國社)の要求に依り一月二十
日市會協議會を開催、合同問題を中心に無産既成兩派相
對立論戰何等纏るところはなかつた。而して双方の主張は
○無産政黨の主張

合同は労働條件や福利施設を劣悪化し、労働者の生活を
低下せしめ従つて市勢の發展を阻害するに至るものであ
るが故に絶対に反對せねばならぬ。

○既成政黨(政民兩黨)の主張